

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	各種健(検)診に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	2	
政策	誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	健康増進課			
施策	健康を支える保健・医療の充実	担当課室長	本間 恵			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	胃内視鏡検査導入に向けての検討を継続し、受診者の増減に伴う読影回数の見直しや検診日程の調整をする。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	新型コロナウイルス感染症の状況による影響を考え、安心して受診できるような体制を整え検診実施するとともに、胃内視鏡検査の導入に向けた調整を行う。
②①に基づく取組み結果	新型コロナウイルス感染症の影響により、胃内視鏡検査導入は、医師会等と協議した結果、延期とした。検診の日程、読影の再調整等を行い、検診を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に住民登録があり、健康増進法に基づく対象年齢の者	意図(対象をどうするのか)	生活習慣病の予防、疾病の早期発見、早期治療を推進する。
②事務事業の概要	がん疾患等の早期発見、早期治療を促進し、市民の健康保持と増進を図るために各種健(検)診を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	指針の改正、市民の要望を踏まえ、胃内視鏡の対象者拡大等を検討していく必要がある。検診項目により検診申込者の増減がみられるため、検診体制を整備する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	各種健(検)診を別添資料のとおり実施した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	胃・大腸・胸部検診受診率	13.6	14.1	13	% 業務取得
	ii	乳がん・子宮がん検診受診率	14.1	14.1	13.1	% 業務取得
	iii	肝炎ウイルス検診受診率(40歳)	23.9	20.7	22.7	% 業務取得
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算	
事業費(千円)	101,081	103,252	金額(千円)	内容	116,702	
国支出金(千円)	493	528	9,370	報酬	478	
県支出金(千円)	5,393	5,420	1,998	医薬材料費	5,386	
市債その他(千円)	7,050	6,416	80,063	健(検)診委託料	7,273	
一般財源(千円)	88,145	90,888	7,234	撮影機器使用料	103,565	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	高齢化や国等からの指針、受入医療機関等の状況により、検診実施体制を検討することが必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	疾病の早期発見、治療により市民の健康保持につながるものであり、効果を精査・検証しながら進める必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初	0	R1からの繰越	
③達成状況		R1⇒R2繰越		現年分	
④未完了・非着手の理由		補正			
		流用・充当			
		令和3年度への繰越額(単位:千円)			

各種健（検）診の実施状況

名 称	集団検診受診者数	個別検診受診者数	合 計
健康診査（医療保険未加入者）		61人	61人
胃がん検診	3,124人	685人	3,809人
大腸がん検診	6,130人		6,130人
乳がん検診（マンモグラフィー）	3,347人		3,347人
うちクーポン券対象	228人		228人
乳がん検診（エコー）	369人	6人	375人
子宮頸部がん検診		3,157人	3,157人
うちクーポン券対象		81人	81人
子宮体部がん検診		37人	37人
胸部検診	5,583人		5,583人
肝炎ウイルス検診		1,413人	1,413人

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	予防接種に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	2	
政策	誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	健康増進課			
施策	健康を支える保健・医療の充実	担当課室長	本間 恵			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	接種率向上のため、必要な周知、接種勧奨をする。10月からロタウイルス予防接種の導入を遅滞なく行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	風しんの追加的対策(大人の風疹抗体検査及び予防接種)の最終年度であるため、未受検者への再勧奨を行う等、受検率の増に向けた取組を行う。
②①に基づく取組み結果	ロタウイルスワクチン予防接種を10月から導入。新型コロナウイルス禍において、定期接種特別救済等対応をし、対象者の方が、必要な予防接種ができるようにした。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	予防接種法で定められた対象者及び市長が対象とする者	意図(対象をどうするのか)	予防接種で防げる伝染のおそれがある疾病の発生及びまん延を予防する。
②事務事業の概要	感染症の発生及びまん延を予防するために予防接種を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	予防接種は感染症対策上極めて重要な役割を果たしてきた。感染症の流行やワクチンの効果及び副反応等の見直し、新たなワクチンの開発等により、接種制度の改正がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	乳幼児、児童、生徒対象分と高齢者分の予防接種を別添資料のとおり実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	乳幼児予防接種率	98.0	99.4	99.7	%	業務取得
	ii	児童生徒予防接種率	51.2	57.3	48.5	%	業務取得
	iii	高齢者インフルエンザ予防接種率	41.7	45.8	60.4	%	業務取得
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算		
事業費(千円)	246,956	282,292	金額(千円)	内容		331,943	
国支出金(千円)	6,414	9,155	1,448	印刷製本費		8,925	
県支出金(千円)	12	35	745	通信運搬費		12	
市債その他(千円)			274,873	予防接種委託料			
一般財源(千円)	240,530	273,102	2,412	予防接種費用助成金		323,006	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	制度の改正が頻繁にあるため、予算も含め、迅速な対応が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	伝染のおそれがある疾病の発生及びまん延を予防するため、効果を精査・検証しながら進める必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		令和3年度への繰越額(単位:千円)				

予防接種のうち、乳幼児、児童、生徒対象分

名 称	接種者数 (委託分)	接種者数 (償還払い分)
日本脳炎	3,391人回	3人回
麻疹風しん	1,483人回	2人回
B C G	706人回	7人回
二種混合	892人回	人回
不活化ポリオ	人回	
四種混合	2,790人回	43人回
子宮頸がん予防ワ	221人回	人回
ヒブワクチン	2,802人回	55人回
小児用肺炎球菌ワ	2,728人回	55人回
水痘ワクチン	1,358人回	6人回
B型肝炎ワクチン	2,063人回	44人回
ロタワクチン	591人回	4人回

予防接種のうち高齢者対象分

名 称	接種者数 (委託分)	接種者数 (償還払い分)
高齢者インフルエ	18,619人回	64人回
高齢者用肺炎球菌	756人回	3人回

予防接種のうち風しん5期対象分

名 称	接種者数 (委託分)	接種者数 (償還払い分)
抗体検査	1,601人回	
予防接種 (MR)	323人回	4人回

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新型コロナウイルスワクチン接種に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	2	
政策	誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	健康増進課			
施策	健康を支える保健・医療の充実	担当課室長	本間 恵			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容		③令和3年度に取組む改革・改善内容	新型コロナウイルスワクチン接種について、情報を常に収集し、体制を構築し、関係機関の協力のもと、遅滞なく接種を行う。
②①に基づく取組み結果			

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	鎌ヶ谷市民	意図(対象をどうするのか)	新型コロナウイルス感染症の発症を予防し、まん延の防止を図る。
②事務事業の概要	新型コロナウイルスワクチンの住民接種に係る接種体制を構築し、予防接種法に基づく、臨時接種としてを行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	国では、1月時点で、早くも4月以降に市民の接種が開始となるとしていたが、ワクチン供給や医療従事者接種の進捗状況により滞りが出ている。このような中、市民の方は接種ができるという確証が欲しいという思いを持っている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	コールセンターの設置、フリーザーの設置。集団接種、個別接種を実施するための関係機関との調整や、物品の準備を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	接種数				人回	業務取得
	ii	65歳以上接種率				%	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	0	19,417	金額(千円)		内容	648,245	
国支出金(千円)		20,385	1,458	需用費		609,437	
県支出金(千円)			1,336	通信運搬費			
市債その他(千円)			15,495	委託料			
一般財源(千円)		0	1,062	備品購入費		38,808	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	刻々と状況が変わる為、予算も含め、迅速な対応が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	特例的な事業であり、刻々と状況が変わる為、状況に応じ、事業規模の拡大が必要である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	令和3年度への繰越額(単位:千円)					

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	フッ化物洗口に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	4	
政策	誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	健康増進課			
施策	健康を支える保健・医療の充実	担当課室長	本間 恵			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	小学校2～6年生を学校と時期を調整のうえ継続実施、小学校1年生に教育と洗口指導後、フッ化物洗口を週に1回実施する。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	小学校2～6年生を学校と時期を調整のうえ継続実施、小学校1年生に教育と洗口指導後、フッ化物洗口を週に1回実施する。
②①に基づく取組み結果	小学校2～6年生を6月から継続実施。1年生の保護者に希望調査を行い、1年生に健康教育と洗口指導を実施し、2学期より洗口を開始した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	園児及び学童、生徒	意図(対象をどうするのか)	永久歯のむし歯を予防する。
②事務事業の概要	保育園・幼稚園・小学校・中学校特別支援学級においてフッ化物洗口を行い、生涯むし歯になりにくい強い永久歯をつくる。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	近年子どもの貧困問題が増加しており、むし歯と貧困の関係も指摘されている。全国でのフッ化物洗口の実施設数・実施人数は年々増加しており、平成14年度には2,951施設(303,182人)だったが、平成30年度には14,158施設(1,526,857人)と16年間で4倍以上に増加している。本市における対象児の実施希望者の割合は約99.1%であった。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	保護者や学校関係者の理解のもと、フッ化物洗口を全校の1年生で、希望者に対して開始することができた。また、2～6年生及び保育園・幼稚園・中学校特別支援学級において継続実施することができた。(詳細は、別添資料のとおり)						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	12歳児の一人当たりのむし歯数	0.73	0.87	0.44	本	鎌ヶ谷市学校保健統計
	ii	12歳児のむし歯のない者の割合	69.7	65	78.6	%	鎌ヶ谷市学校保健統計
	iii	フッ化物洗口実施人数	6,185	6,929	6,727	人	業務取得
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	2,755	2,535	金額(千円)	内容		4,286	
国支出金(千円)			958	報酬		1,068	
県支出金(千円)			694	消耗品費			
市債その他(千円)			271	医薬材料費			
一般財源(千円)	2,755	2,535	389	委託料		3,218	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	洗口が全小学校全学年で円滑に継続実施できるようにするため、関係者と協働で行う必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	子どものむし歯予防は、歯科医療費の抑制につながり、有効性が高い。新型コロナウイルス感染症予防対策を行いながら継続し、園医の協力を得た事業を実施していく。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	令和3年度への繰越額(単位:千円)					

フッ化物洗口事業(令和2年度)

-実施計画事業-

【事業の成果】

(1) フッ化物洗口実施施設数及び実施人数

	施設数	人数
保育園	11	477 人
幼稚園	7	799 人
小学校	9	5,432 人
中学校(特学)	3	19 人
合計	30	6,727 人

※小学校1～6年生及び全校の特別支援学級で希望者に実施

(2) 1年生・特別支援学級及び教職員に対するフッ化物洗口指導を実施
9校 876人

(3) 就学時健康診査時に保護者説明会を実施
9校 保護者 858人